千葉県公立高等学校入学者選抜に関するアンケート調査結果Ⅰ（速報値）

千葉県高等学校長会
高校入試対策委員会

○ 集計について
　アンケートの回収は、公立高校130校(回収率100%)、私立高校49校(回収率83%)でした。
　集計にあたっては、各高校のそれぞれの立場からの意見等が比較できるように、全体集計の内訳として、公立・私立高等学校別に集計しました。また、公立高校の内訳として、普通科のみ設置校とそれ以外の学科設置校に分けて集計しました。

１　今年度（平成28年度）の入学者選抜を振り返って

（1）日程、時期について

ア　前期選抜（地域連携アクティブスクールⅠ期）の日程について

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①早すぎる	14 校	10 校	24 校	5 校	9 校
	10.9 %	21.7 %	13.7 %	6.6 %	17.0 %
②遅すぎる	10 校	2 校	12 校	6 校	4 校
	7.8 %	4.3 %	6.9 %	7.9 %	7.5 %
③適切である	105 校	34 校	139 校	65 校	40 校
	81.4 %	73.9 %	79.4 %	85.5 %	75.5 %

イ　後期選抜（地域連携アクティブスクールⅡ期）の日程について

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①早すぎる	5 校	4 校	9 校	4 校	1 校
	3.9 %	8.7 %	5.1 %	5.3 %	1.9 %
②遅すぎる	24 校	8 校	32 校	14 校	10 校
	18.6 %	17.4 %	18.3 %	18.4 %	18.9 %
③適切である	100 校	34 校	134 校	58 校	42 校
	77.5 %	73.9 %	76.6 %	76.3 %	79.2 %

ウ　入試の全期間について

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①長すぎる	76 校	20 校	96 校	44 校	32 校
	58.5 %	42.6 %	54.2 %	57.1 %	60.4 %
②短すぎる	3 校	1 校	4 校	2 校	1 校
	2.3 %	2.1 %	2.3 %	2.6 %	1.9 %
③適切である	51 校	26 校	77 校	31 校	20 校
	39.2 %	55.3 %	43.5 %	40.3 %	37.7 %

　前・後期選抜の日程については、全体の８割近くの高校が「適切である」と回答しているが、それ以外の回答では、前期選抜では「早すぎる」、逆に、後期選抜では、「遅すぎる」の回答の方が多い。
　その結果、入試の全期間については、全体の５４．２％が「長すぎる」とし、「適切である」と回答した高校（４３．５％）を１０％程度上回っており、昨年度以上に入試期間の長期化が、各校の教育活動へ影響を及ぼしている現状が推察される。

（2）募集人員について

ア　普通科（地域連携アクティブスクールを除く）の前期選抜の定員枠（30%以上60%以内）について

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①多い	2 校	8 校	10 校	1 校	1 校
	1.6 %	17.0 %	5.7 %	1.3 %	1.9 %
②少ない	43 校	4 校	47 校	26 校	17 校
	33.6 %	8.5 %	26.9 %	34.2 %	32.7 %
③適切である	83 校	35 校	118 校	49 校	34 校
	64.8 %	74.5 %	67.4 %	64.5 %	65.4 %

イ　地域連携アクティブスクールのⅠ期選抜の定員枠（60%以上100%以内）について

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①多い	11 校	13 校	24 校	9 校	2 校
	9.2 %	27.7 %	14.4 %	12.0 %	4.4 %
②少ない	6 校	2 校	8 校	3 校	3 校
	5.0 %	4.3 %	4.8 %	4.0 %	6.7 %
③適切である	103 校	32 校	135 校	63 校	40 校
	85.8 %	68.1 %	80.8 %	84.0 %	88.9 %

ウ　専門学科の前期選抜の定員枠（50%以上100%以内）について

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①多い	11 校	13 校	24 校	9 校	2 校
	8.6 %	27.7 %	13.7 %	11.8 %	3.8 %
②少ない	4 校	3 校	7 校	1 校	3 校
	3.1 %	6.4 %	4.0 %	1.3 %	5.8 %
③適切である	113 校	31 校	144 校	66 校	47 校
	88.3 %	66.0 %	82.3 %	86.8 %	90.4 %

普通科の前期定員枠については、全体の６７．４％の高校が「適切である」と回答しているが、「少ない」と回答した公立高校が３３．６％（普通科のみ設置の公立高校の３４．２％）を占めている。一方、私立高校では、１７．０％の高校が「多い」と回答している。公立高校と私立高校の回答に、隔たりが見られるが、昨年度よりはその差が小さくなった。

地域連携アクティブスクールの定員枠については、２８年度から定員枠が増えたことを反映し、公立高校では８５．８％が「適切である」と回答しているのに対し、私立高校では２７．７％が「多い」と回答している。

専門学科の前期定員枠についても、２８年度から定員枠が増えたことを反映し、「適切である」と回答した高校は、全体の８２．３％であり、昨年度の５０．９％から大幅に上昇した。特に、普通科以外の学科を設置する公立高校は９０．４％が「適切である」と回答している。その一方で、私立高校は「多い」と回答した高校が、地域連携アクティブスクールと同じ２７．７％あり、普通科の場合よりも多くの学校が「多い」と感じている。

（3）地域連携アクティブスクールⅠ期選抜、専門学科の前期選抜の定員枠が増えたことについて

ア　定員枠が増えたことはよかった

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①はい	77 校	8 校	85 校	41 校	36 校
	60.2 %	17.0 %	48.6 %	53.2 %	70.6 %
②いいえ	6 校	10 校	16 校	5 校	1 校
	4.7 %	21.3 %	9.1 %	6.5 %	2.0 %
③どちらともいえない	45 校	29 校	74 校	31 校	14 校
	35.2 %	61.7 %	42.3 %	40.3 %	27.5 %

イ　自校への影響があったと感じる

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①はい	39 校	5 校	44 校	15 校	24 校
	30.5 %	10.6 %	25.1 %	19.5 %	47.1 %
②いいえ	48 校	20 校	68 校	33 校	15 校
	37.5 %	42.6 %	38.9 %	42.9 %	29.4 %
③どちらともいえない	41 校	22 校	63 校	29 校	12 校
	32.0 %	46.8 %	36.0 %	37.7 %	23.5 %

地域連携アクティブスクール、専門学科の前期選抜の定員枠が増えたことについて、公立学校の６０．２％が「よかった」と回答しているが、普通科のみの設置校が５３．２％であるのに対し、それ以外の科の設置校では７０．６％と大きな差が生じた。また、私立高校では「よかった」は１７．０％にとどまり、「どちらともいえない」が６１．７％となっている。

自校への影響については、「はい」「いいえ」「どちらともいえない」が分散している。普通科以外の科を設置している公立高校では４７．１％が「はい」と回答しているが、記述による回答などから、前期選抜で定員を確保し、入試が１回で済むことによる良い影響ととらえている学校が多いと推察される。一方で私立高校は４６．８％が「どちらともいえない」と回答している。

(4)学力検査について

ア　前期の試験問題について

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①どちらかといえば難しい	17 校	1 校	18 校	12 校	5 校
	13.1 %	2.2 %	10.3 %	15.6 %	9.4 %
②どちらかといえばやさしい	0 校	5 校	5 校	0 校	0 校
	0.0 %	11.1 %	2.9 %	0.0 %	0.0 %
③適当である	113 校	39 校	152 校	65 校	48 校
	86.9 %	86.7 %	86.9 %	84.4 %	90.6 %

イ　後期の試験問題について

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①どちらかといえば難しい	13 校	1 校	14 校	9 校	4 校
	10.0 %	2.2 %	8.0 %	11.7 %	7.5 %
②どちらかといえばやさしい	16 校	5 校	21 校	13 校	3 校
	12.3 %	11.1 %	12.0 %	16.9 %	5.7 %
③適当である	101 校	39 校	140 校	55 校	46 校
	77.7 %	86.7 %	80.0 %	71.4 %	86.8 %

学力検査の試験問題については、前期選抜・後期選抜ともに８割以上の学校が「適当である」と回答している。一方、前期選抜では１３．１％の公立高校が「どちらかといえば難しい」としている。後期選抜では、昨年度４．７％だった「どちらかといえば難しい」が１０．０％に増え、１５．５％だった「どちらかといえばやさしい」が１２．３％に減り、やや難しくなった印象がある。私立高校でも後期選抜について「どちらかといえばやさしい」が昨年度の２０．０％から１１．１％に下がっている。

(5)その他

ア　前期選抜において特色化選抜の理念が次第に薄れつつある。

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①はい	73 校	30 校	103 校	41 校	32 校
	56.2 %	65.2 %	58.5 %	53.2 %	60.4 %
②いいえ	18 校	1 校	19 校	13 校	5 校
	13.8 %	2.2 %	10.8 %	16.9 %	9.4 %
③どちらともいえない	39 校	15 校	54 校	23 校	16 校
	30.0 %	32.6 %	30.7 %	29.9 %	30.2 %

イ　前期選抜1日目での5教科実施は受検者の負担が重すぎる。

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	それ以外
①はい	44 校	8 校	52 校	27 校	17 校
	33.8 %	17.0 %	29.4 %	35.1 %	32.1 %
②いいえ	56 校	15 校	71 校	32 校	24 校
	43.1 %	31.9 %	40.1 %	41.6 %	45.3 %
③どちらともいえない	30 校	24 校	54 校	18 校	12 校
	23.1 %	51.1 %	30.5 %	23.4 %	22.6 %

ウ　後期選抜を1日で実施するには、内容的に受検者の負担が重すぎる。

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	それ以外
①はい	51 校	9 校	60 校	31 校	20 校
	39.2 %	19.1 %	33.9 %	40.3 %	37.7 %
②いいえ	48 校	14 校	62 校	25 校	23 校
	36.9 %	29.8 %	35.0 %	32.5 %	43.4 %
③どちらともいえない	31 校	24 校	55 校	21 校	10 校
	23.8 %	51.1 %	31.1 %	27.3 %	18.9 %

エ　後期選抜の実態が、まるで2次募集かのようになっている。

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	それ以外
①はい	42 校	24 校	66 校	22 校	20 校
	32.3 %	51.1 %	37.3 %	28.6 %	37.7 %
②いいえ	45 校	2 校	47 校	27 校	18 校
	34.6 %	4.3 %	26.6 %	35.1 %	34.0 %
③どちらともいえない	43 校	21 校	64 校	28 校	15 校
	33.1 %	44.7 %	36.2 %	36.4 %	28.3 %

オ　入試に関する業務が増え、教職員への負担が増大している。

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	それ以外
①はい	117 校	19 校	136 校	70 校	47 校
	90.0 %	40.4 %	76.8 %	90.9 %	88.7 %
②いいえ	4 校	3 校	7 校	2 校	2 校
	3.1 %	6.4 %	4.0 %	2.6 %	3.8 %
③どちらともいえない	9 校	25 校	34 校	5 校	4 校
	6.9 %	53.2 %	19.2 %	6.5 %	7.5 %

カ　入学者選抜の期間が長く、教育活動に支障がある。

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	それ以外
①はい	113 校	24 校	137 校	68 校	45 校
	87.6 %	51.1 %	77.8 %	89.5 %	84.9 %
②いいえ	4 校	2 校	6 校	3 校	1 校
	3.1 %	4.3 %	3.4 %	3.9 %	1.9 %
③どちらともいえない	12 校	21 校	33 校	5 校	7 校
	9.3 %	44.7 %	18.8 %	6.6 %	13.2 %

アの「前期選抜において特色化選抜の理念が次第に薄れつつある」について、「はい」と回答した高校は、全体の５８．５％(公立高校の５６．２％、私立高校の６５．２％)を占め、全体の半数以上の高校が、特色化の理念が薄れつつあると感じていることが分かる。

イの「前期選抜１日目での５教科実施は受検者の負担が重すぎる」については、公立高校では「はい」が３３．８％、「いいえ」が４２．６％で「いいえ」の方が多い。それに対し、ウの「後期選抜を１日で実施するには、内容的に受検者の負担が重すぎる」については、公立高校では「はい」が３９．２％、「いいえ」が３６．９％で「はい」の方が若干多い。これは、学力検査以外を２日目に実施する前期選抜と、１日ですべてを実施する後期選抜の違いが出ていることが伺える。しかし、２８年度は専門学科等の前期選抜の定員枠が増え、学校によっては後期選抜がなくなったことを反映し、ウにおける公立学校のうち「普通科のみの設置校」では「はい」が４０．３％、「いいえ」が３２．５％に対し、「それ以外」では「はい」が３７．７％、「いいえ」が４３．４％と逆転現象が生じている。

エの「後期選抜の実態が、まるで２次募集かのようになっている」については、公立高校では「はい」「いいえ」「どちらともいえない」の回答がほぼ拮抗している。公立高校のうち「普通科のみの設置校」では「はい」が２８．６％、「いいえ」が３５．１％に対し、「それ以外」では「はい」が３７．７％、「いいえ」が３４．０％とここでも逆転現象がみられる。これは、専門学科の前期選抜の定員枠を１００％にしたが、前期選抜で定員枠を満たせなかった学校の意見が反映されていることが推察される。私立高校では５１．１％が「はい」と回答し、公立高校との差が大きい。

オの「入試業務の増加による教職員への負担の増大」については、全体の７６．８％（公立高校の９０．０％）が、「はい」と回答しており、これは昨年の数値より１０％程度多い。入試制度の複数化、複雑化等に伴い、多くの学校で教職員への負担がさらに増大していることが伺える。

カの「入学者選抜の期間が長く、教育活動に支障がある。」についても、全体の７７．８％（公立高校の８７．６％）の高校が「はい」と回答しており、これも昨年の数値より５％程度多い。入試の全期間の長期化が、ほとんどの学校で教育活動に様々な影響を及ぼしていることが伺える。

２ 平成29年度の入学者選抜について

(1)日程、時期について

ア 前期選抜(地域連携アクティブスクールⅠ期)の日程について

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①早すぎる	12 校	10 校	22 校	6 校	6 校
	9.4 %	21.3 %	12.6 %	7.8 %	11.8 %
②遅すぎる	12 校	3 校	15 校	8 校	4 校
	9.4 %	6.4 %	8.6 %	10.4 %	7.8 %
③適切である	104 校	34 校	138 校	63 校	41 校
	81.3 %	72.3 %	78.9 %	81.8 %	80.4 %

イ 後期選抜(地域連携アクティブスクールⅡ期)の日程について

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①早すぎる	4 校	4 校	8 校	3 校	1 校
	3.1 %	8.5 %	4.6 %	3.9 %	2.0 %
②遅すぎる	28 校	13 校	41 校	19 校	9 校
	21.9 %	27.7 %	23.4 %	24.7 %	17.6 %
③適切である	96 校	30 校	126 校	55 校	41 校
	75.0 %	63.8 %	72.0 %	71.4 %	80.4 %

ウ 入試の全期間について

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
①長すぎる	84 校	19 校	103 校	51 校	33 校
	65.6 %	40.4 %	58.9 %	66.2 %	64.7 %
②短すぎる	2 校	1 校	3 校	1 校	1 校
	1.6 %	2.1 %	1.7 %	1.3 %	2.0 %
③適切である	42 校	27 校	69 校	25 校	17 校
	32.8 %	57.4 %	39.4 %	32.5 %	33.3 %

エ　後期選抜（地域連携アクティブスクールⅡ期）の出願が1日のみになったことについて

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	それ以外
ア　従来どおり2日あった方がよい	21　校	10　校	31　校	13　校	8　校
	16.7　%	23.8　%	18.5　%	17.3　%	15.7　%
イ　適切である	105　校	32　校	137　校	62　校	43　校
	83.3　%	76.2　%	81.5　%	82.7　%	84.3　%

平成２９年度入試の前期選抜の日程は、昨年度より４日遅くなりほぼ一昨年並みとなった。このことについて、８１．３％の公立高校が「適切である」と回答している。私立高校でも７２．３％が「適切である」と回答し、「早すぎる」と回答した学校は２１．３％で、昨年度の４８．６％より大幅に減少した。

後期選抜の日程は、全体の７２．０％（公立高校の７５．０％）が「適切である」と回答し、概ね肯定的であった。私立高校で「遅すぎる」と回答した学校は２７．７％（昨年度２５．７％）で、ほぼ横ばいであった。

入試の全期間については、「長すぎる」が、全体の５８．９％、公立高校の６５．６％(昨年度５２．７％）であり、入試の全期間については、昨年度以上に各校で支障が生じていることが伺える。

エの「後期選抜の出願が１日のみになったことについて」は、全体の８１．５％（公立高校の８３．３％）が「適切である」と回答し、概ね肯定的であった。

３　今後の本県の公立高等学校入学者選抜制度について

（1）　入学者選抜制度の改善が必要と感じていますか。

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	それ以外
ア　はい	130　校	44　校	174　校	77　校	53　校
	100.0　%	89.8　%	97.2　%	100.0　%	100.0　%
イ　いいえ	0　校	5　校	5　校	0　校	0　校
	0.0　%	10.2　%	2.8　%	0.0　%	0.0　%

（2）　（1）でアを選んだ方に伺います。どのような改善が必要だと思いますか。

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	それ以外
ア　基本的に現行制度(前期選抜･後期選抜)を維持し、改善も必要最小限の内容にとどめる。	5　校	3　校	8　校	5　校	0　校
	3.8　%	6.8　%	4.6　%	6.4　%	0.0　%
イ　現行制度(前期選抜･後期選抜)を維持しつつ、募集割合や日程、検査内容等を見直すなど大幅な改善を図る。	6　校	3　校	9　校	4　校	2　校
	4.6　%	6.8　%	5.1　%	5.1　%	3.8　%
ウ　以前のような、推薦入試と学力検査による選抜(評価尺度･実施回数ともに複数化)の形式に戻す。	8　校	1　校	9　校	5　校	3　校
	6.1　%	2.3　%	5.1　%	6.4　%	5.7　%
エ　1回（実施回数の一本化）の入試にする。	112　校	37　校	149　校	64　校	48　校
	85.5　%	84.1　%	85.1　%	82.1　%	90.6　%
オ　その他	0　校	0　校	0　校	0　校	0　校
	0.0　%	0.0　%	0.0　%	0.0　%	0.0　%

（4）（2）でエを選んだ方に伺います。どのような形で1回(一本化)の入試にすべきだと思いますか。

	公立	私立	計	公立高校のうち 普通科のみ設置校	公立高校のうち それ以外
ア 学力検査のみによる1回の選抜にする。	16 校	14 校	30 校	8 校	8 校
	14.2 %	37.8 %	20.0 %	12.5 %	16.3 %
イ 現在の前期選抜のような形式で一本化し、各学校の特色に応じて、選抜・評価方法や2日目の検査内容の弾力化を図り、複数尺度による1回の選抜にする。	67 校	9 校	76 校	38 校	29 校
	59.3 %	24.3 %	50.7 %	59.4 %	59.2 %
ウ 茨城県などが実施しているような、1回の入試日程で、特色化選抜と学力検査などよる選抜など複数評価尺度の選抜を同時に行う。	28 校	12 校	40 校	18 校	10 校
	24.8 %	32.4 %	26.7 %	28.1 %	20.4 %
エ その他	2 校	2 校	4 校	0 校	2 校
	1.8 %	5.4 %	2.7 %	0.0 %	4.1 %

入学者選抜制度の改善の必要性については、全体の９７．２％（公立高校は１００％）が、必要性を感じている。その中で、必要とされる改善に関しては、エの１回（実施回数の一本化）の入試への改善が最も多く、全体の８５．１％（公立高校の８５．５％、私立高校の８４．１％）を占めている。複数回の受検機会を確保する、ア・イ・ウの合計でも全体の１４．８％であった。

また、一本化入試の形態については、「現在の前期選抜のような形式で、各学校の特色に応じて選抜・評価方法や２日目の検査内容を弾力化する選抜」が、全体の５０．７％（公立高校の５９．３％、私立高校の２４．３％）で最も多く、ついで「茨城県などが実施している、複数評価尺度の選抜を同時に行う（学校により学力検査のみと特色化選抜の選択が可）選抜」が全体の２６．７％（公立高校の２４．８％、私立高校の３２．４％）であった。「学力検査のみによる１回の選抜」は、全体の２０．０％（公立高校の１４．２％、私立高校の３７．８％）で、私立高校では「学力検査のみ」が最も多いが、公立高校では一番少なく、公立高校では学力検査のみの選抜には抵抗感が強い。

昨年度も本委員会で実施したアンケート結果では、全体の８１．９％（公立高校の８０．６％、私立高校の８６．１％）が「１回（実施回数の一本化）がよい」と回答し、今回のアンケート結果とほぼ同じ数値となっている。本委員会による校長会のアンケート結果としては、「実施回数の一本化」にむけた入試制度の改善を求めていることで一貫している。

千葉県公立高等学校入学者選抜に関するアンケート調査結果Ⅱ　（記述）

1(3)のウ： 地域連携アクティブスクールⅠ期選抜、専門学科の前期選抜定員枠増加による影響（記述）

（公立高校）

○学検　学力点が変化した。

○中学校側が受検を勧める生徒の傾向が変化した。

○通学可能学区・学力が同等の学校であるために志願者獲得のために影響があった。(2校)

○園芸科が前期で100%埋まらなかったが、ごく少数の不足のため、後期や二次で生徒が逆に応募しづらい状況が生まれた。

○他の普通高校が前・後期2回の選抜がある中、前期100パーセントということで、1回の受検機会しかないということから、かなり慎重かつ安全策をとってきたと思われる。2学科については、例年を下回る受験者数であった。

○本校志願者（受検者）が減になった。(5校)→志願者が大幅に減少したり、定員割れを起こした学校あり

○普通科、専門学科問わずの変更ならば影響はないが、専門学科だけとなると、中学生の動向に影響があるのは充分に考えられる。
○前期選抜募集に影響(本校の学区は専門学科を有する高校が多い。前期枠が増えたことで、後期選抜で本校にチャレンジする生徒が減った。)

○早期合格を望む中学生が定員枠の多い高校を選んだと思われる。(2校)

○普通科系の学科への入学志願者の確保が難しい。

○定員枠を広げたことによって、従来では入学候補者にならない生徒が定員内合格となる可能性が出た。

○質問項目が、普通高校を中心につくられており、この設問に関してはうまく回答できない。

○アクティブスクールの趣旨を理解している受検生をⅠ期選抜で多く確保できる。(2校)

○中学校側に失敗できないという緊張感があったのか、堅実(工業第一志望)な生徒のみを送ってきたものと受け止めている。

○専門学科前期で100％選抜できることは、希望している生徒に対しては1回のチャンスではあるが、不要な不合格者（前期不合格で後期合格者）を出さずに済むので、やる気をそぐことなく入学を迎えることができる利点がある。

○確実に「芸術科」を志望するという強い意思を持った生徒が集まるようになった。

○理数科の倍率が減ることなく定員確保ができた

○本校は、前期で不合格になった志願者のほとんど100％が後期も受検する。よって、1回の選抜で済ませられれば、生徒にわざわざ不合格体験をさせなくて済む。

○本校では、商業科・体育科の前期選抜枠は100％で実施、普通科のみ後期選抜を行った。例年商業科では前期選抜で不合格であった生徒は、後期選抜で他校を受験するケースがあった。今年度は、商業科を第一希望とする生徒をより多く入学させられた。

○今年度の入試において、本校は倍率が回復した。近隣の専門学科が100％になったことが、その要因の一つとして考えられる。

○倍率が増えたのと本当にその学科を希望する者の受検が増えた。

○本校国際人文科を第1希望にしている受検生を多く入学させることができ、入学後の学校生活に前向きに取り組めていると捉えている。

○後期選抜が無い可能性があるため、生産流通科の受検者が多くなった。成績に不安な受検生は普通科志望であるにも関わらず生産流通科を希望した。

○1回で済んだので、業務の負担が減り良かった。(4校)

（私立高校）

○歩留まり(合格者に対する入学者の割合＝最終的な入学手続き率)に影響した。

○受験者数が減った。

○入学者数減

○本校の志願者が増加した。

○志願者が増加した。生徒が併願をしっかり考えるようになった。

1（5）のキ(その他）： 平成28年度入学者選抜を振り返っての問題点 （記述）

（公立高校）

○前期選抜の合格者発表後に、誓約書を提出したにもかかわらず、別の学校に入学のため、取り消した。

○受検者が「持参する」もので、毎年トラブル（不祥事）のもとになる「三角定規一組（角度の目盛りのないもの）」については、過去に検討したとは思うが、他の都道府県の指示の仕方も参考にして、そろそろ改善してもよいのではないか。数学や理科の出題に影響するという理由だと思うが、出題に制限が加わっても、受検者及び高校現場が混乱なく実施できる方が重要だと思う。

○前後期を2回の挑戦のチャンスと考えているのは、特に成績上位層の親に多い意見。前期の門戸を狭くすることで、結果的に後期安全性を優先することで、第1志望校をあきらめてしまう生徒もかなりの人数になる。関東の他県同様1回の機会とした方がよいのではないでしょうか。

○入試が2回ある限り、教育活動への影響は甚大である。

○前期試験の受検者の大半が後期を再受検する現状を考えると、1回にまとめるべきだと考えます。

○1回の選抜にすべき(2校)

○以下の2点
①現状では，「輪切り」を促進させることになる。前・後期を一本化し，調整として，2次募集を実施する。一本化すれば，多面的な価値観に基づいた高校選択が行われるものと考える。
②現状では，高校側の負担が過重で，このために人事評価や校内の重要な業務日程，生徒の学年のまとめや進級に臨む指導など，教育活動に甚大な影響を及ぼしている。

○入学者選抜は現在の2回実施ではなく、埼玉県や茨城県のように1回実施とすべきである。中学校においても前期（Ⅰ期）選抜不合格者は負け組のようになっているという。高校においても、進級や卒業に不安を抱えた生徒を指導する時間が極端に少ない状況である。

○前期不合格者が公立高校をあきらめて私立高校に流れてしまう傾向がある。

○入試倍率に偏りがあることを考慮し、募集定員の見直しを図るべきである。前期選抜において、「募集定員内」に入っている受検者が不合格になり後期選抜を受検しなければならない現行の仕組みには問題がある。特に地域の中学校からの志願者には申し訳なく感じる。

○入試業務全般を見直し、職員の負担軽減を促進する。

○入試期間が長すぎる。授業の確保が出来ないうえに、教員には過度の緊張を強いる。教職員の負担を考えないことが問題である。

○入試という緊張を強いられる業務を2度も実施するには、教頭・教務主任の負担が重すぎる。それでなくても3学期は短いので、授業に専念できる体制が必要ではないか。

○高校の授業時数が確保されにくい。

○特に2月の教育活動がまともに行えない状況である。

○後期選抜によりカットされる授業数は15時間程度ある。受付から合否発送までミスの許されない作業が、2週間つづくのは、負担は大きい。

○「複数の受検機会」というが、実質的にはその意味がないことを中学生の保護者に知らしめるべき。

○受検の複数機会の美名のもとに、前期で大量の不合格者を出してしまう今の入試制度は、教育上の問題があまりにも大きい。

○選抜の透明性、説明責任を求める流れからすると、学力検査の比重が高くなる方向性が見えてくる。その上で、学力検査を2回行う事の意味がなくなってきていると感じている。
一方で、実質の業務が2ヶ月にも及び、通常の教育活動が制限される期間が長すぎる。3学期制の学校では、他の学期との授業時間数に隔たりがあり、評価の比率が同じになることに違和感がある。

○定時制に地域の問題生徒が集まる傾向があり、対応が困難になっている。

○特色ある生徒の募集が困難になった。

○前期発表から後期出願まで1日延びたことがよかった。

（私立高校）

○入試期間の長期化の一方で、中学校の卒業式が早期化しており、中学卒業までに進路先が決定しない生徒が増加している。これは15の春を泣かせないという理念から問題があると考えられる。

○前期選抜実施日2/9・10は東京都の私立高校一般入試日2/10と同日となったこと。

○特色化選抜の理念が全く感じない。生徒に複数の受験の機会を与えるという理由が成り立っていない。

○選抜期間の長期化は中学・高校に良い影響は与えない。また入試翌日に合格発表が出来るようにすべき。

3（2）のオ ： 今後の本県の公立高等学校入学者選抜制度について、具体的な改善方法 （記述）

（公立高校）

○実施回数の一本化を選びましたが、推薦制度の併用はあってよいと考えます。学力検査は一度でよいと思います。

○中学校での保護者や生徒への周知が難しいが、以前の推薦入試にする。

○例えば、文系科目（国社英）で60分・理系科目（理数）で40分で基礎的な学力を測ってみてはどうか。
文系75分・理系50分でもよい。各学校が設定できる集団面接等はあった方がいいので教科科目で調整したほうがよい。英国数3科目にすると、理社軽視の風潮を作るのでよくない。

（私立高校）

○受験機会の複数化

3の（3）： 現行の入学者選抜制度を維持すべきと考える理由 （記述）

（公立高校）

○受験者の不慮の事故に対応できるシステムが望ましい

○選抜の機会が複数回ないと、受検者やその保護者にとって、精神的に酷であると考えるため。(2校)

○中学生が高校選択でチャレンジできる制度は必要だと考える。「入れる学校」から「入りたい学校」を選べるからである。

○現行制度についても、かつての改善策を考慮してこのような形になってきていると思います。確かに、1回の選抜の方が、手間などを考えると効率的ですが、本校のような定員集めが厳しい学校にとっては、1回で集まらなければ、即2次募集になります。いつも定員割れの学校というイメージがついてしまいます。ただ、現在は2回とも学力検査重視ですので、両方とも学校の独自性が出せる形がいいのではと思います。

○前期選抜で学校の特色を出せる人材の確保ができ、さらに後期で学力重視の選抜で前期不合格だった受験生に再度チャンスがあることは良いこと。特に地方で私立が少ない場合には必要。

○入学者選抜の多様化・複数機会保障などの施策は、高校中退10万人を改善するための一方策として始まったものである。現在は、高校中退は5万人になり、一定の成果があったと考えられる。
しかし、一方では、高校生の学力保証が大きな課題になっているのも事実であり、学力検査を実施しない選抜は考えられない。
また、選抜を1回にしたほうがいいという意見が高校現場には多いが、理由が職員が忙しすぎるというものでは受け入れられないだろう。もし、中学校側から「1回にしても15の春を泣かせることはない」という条件がそろい、要望として1回受検案が出てくるならば1回受検を実現化してもよいのではないか。この案件は、郡部と都市部の違いが大きいので前期・後期の重複受検者数をデータ化して学区別に判断してもよいかもしれない。いずれにしても、職員の多忙化という短兵急な理由だけでは安易すぎるのではないかと考える。

（私立高校）

○中学三年生に2回チャンスを与えられるから(2校)

○公立でなければ困る家庭もあるので、二度の選抜はやむを得ない。千葉県は公立志向が強く、私学入試は県立高校入試動向を精査しながら時間をかけて慎重に入試判定を行っている。これまでも県立高校入試制度改変のたびに大きな影響を受けてきた。また、県立後期入試発表時期が遅く、3月上旬まで入学者数が判明しない等のリスクはあるが、適正な入試判定の為には今後も現行制度である事が望ましい。

○改善する特段の理由が見当たらないため

○受験者の負担軽減。入試業務の合理化

○安定して定着しているため。(2校)

3の（4）のエ： 一本化の入試にする場合の具体的な改善方法 （記述）

（公立高校）

○前期選抜の理念を踏襲し、選抜・評価方法や各校が必要に応じて行う検査など、各学校の特色に応じて柔軟に対応できるように整理する。

○英検、TOEIC等資格取得者への英語試験代替及び独自問題等入試自体の特色を出し、試験は一本化を図る。

○茨城県のように、特色化選抜と学力検査など複数評価尺度による選抜の形態をとり，かつ，同一校で両方それぞれの定員枠を定めて実施できる方法。

○ミスなく入試業務が実施できるように，シンプルな制度に改善してほしいと思います。

（私立高校）

○茨城県のような方法または学力試験を今の後期日程の時期に1回実施し、調査書等による加点方式。

○茨城県と方式は同じだが、学力検査校は5教科で独自問題も可。特色化選抜校は1日で行い学力検査は選択制3教科。

4　本県入学者選抜についての意見等

（公立高校）

○基本的には，入学者選抜は一本化すべきと考えています。前後期2回の選抜は，高校側及び受検者双方にとってメリットもあるでしょうが，デメリットあるいは問題点のほうが大きいように思えます。一例をあげますと，①前期選抜において，倍率の高い学校と志願者が集まりにくい学校との差が歴然としすぎる。本校の前期2．94倍という高倍率は現行の入試制度のなせるわざと捉えています。②前期選抜では普通科は最大60％しか内定者が出せず，そのために募集定員全体の中では合格圏内に入っているであろう40％の受検者にあえて不合格を体験させるような結果になる。などです。一本化すると，2次募集の在り方が難しくなるでしょうが，やむを得ない面もあるのでは。妙案は思いつきません。上記の設問1，2の「日程，時期について」「適切である」と回答した項目もありますが，あくまでも前期後期で実施するならばこれしかないだろうという観点から回答したものです。

○誓約書の意味を明確に示し、違反した場合の対策も明記する。

○数年前のアンケートで、保護者と中学校が複数回の受検機会を望んでいたが、今中学校は1本化を望んでいると聞く。高校側の要望も考慮して、そろそろ何らかの方法で、折り合いをつける方向に動き始めるべきだと思う。

○私学入試、前期選抜で8割以上の生徒が進学先を決めている中で、後期選抜を頑張らせることは中学生にとって過酷かと思います。そのときの経験から『夢』をあきらめて安全に、という高校生も少なくないと考えます。

○本県の公立高等学校入学者選抜制度は、早急に再検討・改善すべきである。(2校)

○1回にすべきと考えます。(2校)

○検査を一回とし、学校の特性に合わせた選抜方法とする。

○ほとんどすべての中学生が前期選抜を受検していることから、普通科の枠を60％に制限する必要はない。2回チャンスがあるのではなく、1回で合格する者が2回受検させられていると考えてほしい。

○募集定員を二つに分けて2回の選抜を実施するという現在の入試制度は、受検者が「第一志望の学校に行きたい」という気持ちに対し、結果的に応えていない状況をつくっている。「前期選抜」において、「募集定員内」に入っている受検者を不合格とし、中学校の卒業式近くまで合否結果のわからない「後期選抜」を受検しなければならない状況はぜひとも改善すべきである。入試を一本化し、各学校の校長の判断で、特色ある仕組みとして「地域枠選抜」を併用するなど、地域に根ざした学校づくりにかなった選抜方法を工夫すべきであると考える。

○受検機会が2回あるからといって、自分の実力以上の高校に入学できるわけではない。また、人口の多い千葉市、葛南、東葛飾以外の地域の学校では、前期も後期も受検する生徒がほとんど同じという状況であり、前期で落ちた生徒にもう一度負担を強いるだけの内容となっている。その結果、後期の合格者は、学力検査でも各校独自の総合的評価でも下位ということが明らかになるだけ。事実上の二次募集である。そろそろ、一本化に向け、本格的に動く必要があるのではないか。

○高等学校の教育活動にとっても、中学校の教育活動にとっても入学者選抜を1本化することがメリットがあると考えます。また、現状では前期と後期で異なる学校を受検する受検生もそれほど多くなく、1本化しても受検生に大きな不利益はないと考えます。

○　年度末の2月、3月は卒業式や校務分掌の編成、人事評価の最終面談等々多岐にわたり重要な業務がある。また、入試業務のため授業の確保も難しい状況もある。ぜひ、前期・後期を改め一本化にしてほしい。

○　・願書受付期間の短縮　　・志願変更をなくす。

○　・職員の事務負担軽減　　・マンネリ化の打破(入試に係るミスをなくすことを肝に銘じるべき。慣れは危険。丁寧な対応をする。)

○口頭開示が多すぎて、他の校務に支障をきたしている。

○学力検査及び調査書の口頭開示について、現行の方法は、高校現場に大変な負担となっており、また、大きな事故につながる可能性もある。少なくとも学力検査の結果については、合格発表時に受検生全員に開示すべきかと考える。

○隣接県協定により、埼玉県から千葉県を希望すれば1回の埼玉県に比較し、2回受験できるということで希望者も結構いると聞きます。入試制度を見直すとともに、隣接県協定についても千葉県の中学生が不利にならないように,また他地域との公平性が保てるように、もう一度見直すことも必要ではないでしょうか。

○一本化を選びましたが、推薦制度の併用はあってよいと考えます。学力検査は一度でよいと思います。改善を期待しています。

○現在複数回の受検となっており、一見中学生のチャンスが増えたように見えるが、現実的には1回受検とさほど変わらない結果となっているように思える。というのは、前期で希望校に出願しても前期だけの定員者数が少ないため、よほどの実力がないと落ちるためである。また、2回だと教員（特に高校側）の負担が重く日程的な問題もある。ミスの危険性も2回の方が1回よりも格段に多くなる。その様な訳で1回受検でよいと考える。

○本校の場合、前期後期の受検者が同一人物が多く、2回実施する意味が薄い（商科の80％と矛盾しますが）。逆に、後期選抜の新たな受検生は、学校の特色をよく理解していない可能性が高く、入学後に学校に違和感を覚える恐れがある。

○入試の期間が長すぎることは、中学校・高等学校の双方の教育活動に支障をきたしている事実は見逃せない。各学校の特色にあった生徒を多角的な尺度から判定できるように、選抜評価方法の弾力化を図りつつ、中学校段階における学力向上にもつながるよう、現在の前期選抜のような方法で早く一本化をしてほしい。

○本県の独自性も大切ですが、隣接する東京・埼玉・茨城の高校入試の在り方が変わる中で「本当に今のままでよいのか」高い見地から考えるよい時期にあると思います。中学校3年生の3学期の学びが事実上成り立たなくなっていること、高校3学期行事予定の行き詰まり感、入試だけではなく学力向上の見地で見直すことも大事ではないでしょうか。

○現行の前期選抜（専門学科を除く）では第一希望校に志願した、本来は合格できる生徒の多くを不合格にしている。不合格になった受検者が再度同じ学校に志願せず、希望ランクを下げて受検する等の現状は高校にとっても、受検者にとっても不本意であろう。

○以前に県教育委員会が保護者も含めて実施したアンケートがあったが、その際に保護者に対して2回の入学者選抜のマイナス面についてはあまり説明がなく、保護者も2回の入学者選抜のマイナス面を認識していなかったと思われる。2回の入学者選抜のマイナス面を周知する努力をすべきであると思います。保護者は単純に1回よりも2回の方がいい学校へ入れるチャンスがあるだろうと考えてしまうと思います。

○実施回数を1回（1日目学力検査、2日目学校裁量）の形で一本化してほしい。特色化選抜の色合いが薄れつつある、現在のような前期・後期選抜の形は、解消すべきである。

○前期、後期の2回の選抜があるために、中学校3年生が落ち着いてが学習できる期間が減り、高校でも行事や授業に大きな支障が生じている。中学・高校両方の職員の負担も大きく、間違いが起こりやすい状況を自ら招いている。受験機会の複数化に対する中学校保護者、生徒の要望はあると思うが、実際のメリットはあまり感じられない。

○中学生が自分の成績をみて選べる高校がほぼ1つに決まってくる地域や，前期・後期を合わせて，志願者の顔ぶれがほとんど変わらない地域で，成績下位の生徒に2度目の試験を受けさせる制度になっている。また，前期と後期の間に私立の入試があるならともかく，私立の入試が終了してから公立が2回試験をして中学生にメリットはあるのか。少子化の進行で大多数にとって「受検機会の複数化」の意味がなくなった状況になっていることを考慮していただきたい。

○以下の3点
・前期選抜に学力検査を導入した段階で，特色化選抜の理念を導入することが困難になったと考えている。推薦入試と学力検査という従来型でよいのではないか。
・前期，後期の2回を早急に1回実施にすべき。
・県東部や南部の高校は，生徒募集に関しては瀕死の状態にある。「普通科であっても，全県一区」，「寄留も可」といった特例を設けない限り改善される見通しがない。

○受験生にとって複数回の機会が与えられることに、果たして良いことなのか疑問である。高校入試は小学校低学年に影響が出ると思われるので早く検討すべきだと思います（勉強しない等）。受験の不祥事や多忙感をなくすためにも学力検査1日面接等の検査1日の2日間にすべきである。

○上記3（4）では、ウ（茨城県などが実施・・・）を選んだが、趣旨は、入試において学校の特色を出すことができるように学校ごとの裁量を大きくする必要があると考える。また、高大接続改革の実施内容が概ね見えてきたが、時代や改革の流れとは裏腹に、高校現場の教員ほど、1点刻みのペーパーテストによる選抜を良しとする傾向が強い。意識改革が必要である。

○現行の前期選抜方法は各校の特色を活かせる。今後，web上に公開しながら各校の特色を発信し1回で済むような日程をお願いしたい。前期選抜で統一も考えられるが、更に各校独自の選抜方法を選択できる茨城方式を採用しては如何か。但し選抜方法の選択によって、各学校の「格付け」「格差」につながる恐れもあるので、常に検証しながら、柔軟に選抜の見直しを行う姿勢が重要だと思われる。

○一般論としては一本化が望ましいが、志願倍率等その学校の状況によって複数回受検がのぞましい場合もある。

○入学者選抜が1回から2回になった大きな理由があった。退学者増加による生徒指導上の問題から、行ける高校を選択するのではなく行きたい高校を選べる制度として導入された。2回あれば1回目にチャレンジできるメリットもある。
確かに高校側からは授業日の確保や業務の煩雑さ等2回は負担が重い。事務的な内容以外に前述の影響も考慮する必要があると考える。
また、入試日程は私立高校との兼ね合いがある。県内だけでなく隣接都県も関係する。県立高校だけが1回にして日程を遅らせても、私立高校が変わらないのであれば早く決めたい中学生とその保護者の考えから私学に多く流れることも懸念される。少子化の影響で私学は生徒募集に苦慮している高校も多く、私学に有利な日程になることを望んでいると考えられる。
制度に不満はあっても様々な影響があるので深慮する必要があると考える。

○2回の選抜を続けるのであれば，前期選抜の定員を80％以上にしてほしい。

○前期選抜100％募集の場合、現在の後期選抜で行われている、志願・希望変更が認められないか。

○入試期間が長いことにより、授業時数を確保できないことが一番の問題。さらに、長期間に渡り、教職員に過度の緊張感を与え続けることも問題である。

○制度を変えることは受検生にかなりの負担を強いることになるので、変更するのであれば、10年は継続できる制度を確立してほしい。

○少子化は、都市部は別として、郡部では深刻です。公立高校は、生徒がくるのは当たり前という考えでは、もう厳しい時代になっています。ややもすれば、入試事務の効率化の観点が制度改善について優先されますが、いかにして生徒を確保していくかを考えることが必要と思います。その意味で、入試の内容・形態にもっと弾力性があればいいと思います。

○定時制は募集定員にほど遠い志願者数になっている。そのため、特別支援の対象となる生徒、問題行動を繰り返す生徒、中学校時代に不登校であった生徒など、対応に苦慮する生徒が集まる傾向にある。しかし、職員の配置数は授業時数で決められており、特別支援にくらべ教員数が極端に少ない。そのため、学校運営に苦慮する部分もある。定時制における入学者選抜のあり方について一考願いたい。

○後期日程の時期に、茨城県方式を採用。

○入試の日程をできる限り遅くして、授業の時間を確保する。
学期末考査や卒業式を事前に終了し、その後に学検を行うことはできないでしょうか。
学検業務、授業、考査、卒業式等が入り組んだ日程は、生徒の教育にマイナスだと感じる。

○普通科系の高校も、前期選抜の定員枠を専門学科のそれと同様の50％以上100％以内にすべきである。

○普通科と理数科をくくり募集とし、2年次から理数科を設定することを認めていただきたい。この2つは大学科であるが，入学後の教育内容は普通科の理系コースと理数科はほとんど同じである。理科・数学とも使う教科書も同じである。専門科目も2年次から25単位の履修が可能である。

○通信制の課程の入学者選抜は、春入学の一期から四期までのうち、二期以降は十数名しか志願者がいない。120名を迎え入れる転・編入試験や在校生の履修指導に十分な時間を割けるよう、二期と三期は実施しなくてよい。それでも十分にセーフティーネットの役割を果たせると考える。

○老朽化した放送機器によるヒアリング試験は心配至極であるので、機器の更新をお願いしたい。

○国語の聞き取り検査及び英語のリスニング検査をやめてください。施設設備の老朽化により、不測の事態が発生する可能性が極めて高くなっており、その事態に備える体制づくりはかなりの負担(学校全体、個々の教員)になっている。両者をやめるだけでもかなりの負担が減る。耳から聞き取る検査によって得られる情報(受験生の学力)が選抜の資料として本当に適当であるのか、疑問がある。

○以下の2点
・中学校の調査書作成が簡単にできるようなアプリケーションソフトは開発できないものでしょうか。多くの場合、エクセルを使っているがためのミスが頻発しているので、データベースによる調査書作成が統一的にできるようにしてはどうか。
・学力検査の採点をマークシート方式にできないか。少なくても、記号で答える設問については採点ミスがなくなるはずなので。今では、記述式設問の回答もマークシート解答用紙の中に入れられるので、検討してみてはどうか。採点ミスは学力検査の致命的な失敗になるので。

(私立高校)

○合否を判定するだけの入試。もっとシンプルに考えたい。

○千葉県は公立志向が強く、私学入試は県立高校入試動向を精査しながら時間をかけて慎重に入試判定を行っている。これまでも県立高校入試制度改変のたびに大きな影響を受けてきた。また、県立後期入試発表時期が遅く、3月上旬まで入学者数が判明しない等のリスクはあるが、適正な入試判定の為には今後も現行制度である事が望ましい。

○現行の入試制度の良さ、公立高校へ2回の受験機会の保障は、評価したい。

○2月下旬ごろに1回の入試がよい。(2校)

○出来るだけ早く一本化して欲しい。(2校)

○入試制度で一本化すべき。入試改善協での話し合いは結論ありきであり、県の説明会のようなものは意味がない。また、全校統一の検査問題である必要性があるのか？学力が2極化している現在、考えるべきと思う。

○以下の4点
入試期間が長いことにより、中学・高等学校ともに授業日程に大きな支障をきたしていることから1回入試が望ましい。
前期選抜での合格者と、後期を受験しなければならない生徒とが中学校の教室で長期間一緒にいることでの中学校現場での混乱に配慮すべきである。
・後期合格発表は3月6日以前としてほしい。私学の二次入試・入学者確定・制服発注などの日程が後ろにずれており、教員や教材の手配に支障が出ている。
・28年度入試日程は東京都私学の統一入試日と重なり、東京都私学が千葉県私学の入試日程に試験を実施するという対抗措置をとったため、千葉県私学が弊害を被る形となった。今後はこのようなことが決してないように、千葉県私学および他都県日程との調整を図ってもらいたい。
・毎年曜日により入試日程が前後し、私学や隣接都県の日程等との関係で混乱を招いている。曜日によらず日付固定での入試日程を設定すべきである。

○前期後期があるため、公立志向の強い千葉県では中学生本人が第一志望に最後までチャレンジしていこうという気持ちが希薄なところが感じられる。
公私の割合は地域によって見直すべきである、これは高校側の問題だけでなく、中学生にも不公平感を生み出している。

○中学生の負担が増大している。前期選抜で定員枠があるため1回の入試であれば合格している生徒が不合格となることがある。各高等学校の定員数の見直し(倍率差が大きすぎるため)

○少しでも受験生の負担にならないような入試を実施していただきたい。

○学力と特色化選抜を各校が選択し、志願者に対して選択の幅を設ける。公立の入試を1回とし、2次試験を設けたらよい。

○学区についても、市町村合併が終わり、現状にそぐわないので改正すべき。定員を変えずに複数回の入試を行えば見かけ上の倍率が上がり、生徒の負担は増加するのみ。